

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 平成 27 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：介護予防のための住民参加型の口腔機能向上事業 ～口腔機能の減退への気づきと支援～ 高齢者が高齢者を支える活動を通して</p>
<p>2. 申請者名：公益財団法人ライオン歯科衛生研究所</p>
<p>3. 実施組織：公益財団法人ライオン歯科衛生研究所、一般社団法人沖縄県歯科医師会 宮古島市福祉部</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>日本はフレイル・介護予防や認知症予防が国民的な課題となっている。また、高齢者は自身の口腔機能の減退に気づいていないことが多く、誤嚥や窒息事故が多発している。そこで、ライオン歯科衛生研究所では、2009 年より高齢者が口腔機能の減退に気づき、改善につなげるための口腔機能向上システムを開発し、介護予防につながることを報告してきた。さらに、2013 年より沖縄県宮古島の住民を対象に本システムが認知機能低下抑制に貢献できることを確認した。調査に協力した伊良部島より、指導者が実施した口腔機能向上システムを住民参加型のシステムとしてリニューアルして実施したいとの希望が出た。そこで、住民の代表者(推進員)が住民に説明しやすい「お口元気を広げよう手帳」を開発、5 カ月後に実践の公表の場として「お口元気フェスティバル」を企画・開催した結果、プログラム 90%以上の実施者は 77%、口腔機能が有意に向上した(p<0.01)。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>今回の対象者は、伊良部島に在住する高齢者である。最初に、指導者が行ってきた口腔機能向上システムを住民主体で啓発可能な「お口元気を広げよう手帳」を開発した。口腔を 4 つのカテゴリ(口の周り、かむ力、飲み込む力、清潔度)に分けて検査して、機能の低い部分を高める方法を紹介できる手帳を活用して、①推進員への説明会→推進員によるお口元気検査とプログラムの紹介→支援、②推進員と住民の質問会(2 カ月後)→お口元気検査で効果の確認→支援→最終の検査(5 カ月後)→③お口元気フェスティバルを行った。推進員 15 名を含む 68 名(男性 12 名、女性 56 名、平均年齢 71.1 歳)の参加者があった。今回のプログラム 90%以上の実施者は 77%、初回のお口の元気度(100 点満点)の平均得点は 76.3 点→5 カ月後は 89.1 点となりお口の元気度が有意に高まった(p<0.01)。</p>
<p>6. 事業後の評価(今後の課題)：</p> <p>推進員一人あたり平均約 4.3 人(1~13 人)の住民にお口元気を広げており、事業に参加した住民全員でお口の元気度の向上が認められた。しかし今回は、フェスティバルに向けて、イベント的に口腔機能を高める住民参加型の活動であった可能性もある。今後、本活動が、伊良部島の住民に『定着』できたか否かについて調査する予定である。また、宮古島の中心部においても同様な効果が得られるか、さらには宮古島全島にて住民参加型の事業を推進してフレイル・介護予防等に貢献できるか否かを検討する予定である。</p>